

新たな建築 認めません

イタリアの商都ミラノの近郊に、新たな建物の建築を一切認めない方針を決めた自治体がある。2002年に「環境の消耗にストップを」をスローガンに掲げて当選した市長が新規建築禁止を実現した。

（カッシネッタ・ディ・ルガンニャーノ）
（イタリア北部）＝南島信也

環境配慮…でも国の交付金頭打ち

カッシネッタ・ディ・ルガンニャーノ市は面積3・3平方メートル、人口約1800人。市民の多くは農業や観光で生計を立てるか、ミラノに勤めに出ている。02年、環境保護グループに擁立された当時31歳のフィニグエツラ氏が「環境は永遠のものではない。未来の世代や子供たちのため近代化をやめよう」と訴え、初当選した。歴史的建造物が多いイタリアでは、新しい建物を造る際の規制がもともと厳しいが、ミラノのあるロンバルディ

ア州は国内では新建築を伴う開発が進んだ地域。建物や道路を造ると、それに応じて国から交付金が出るからだ。07年に再選され、現在2期目のフィニグエツラ市長は、交付金のために

「悪循環を断ち切りたかった」と語る。同市では新建築は認めない代わりに古い建物をリフォームすれば商店を出すことができるようにした。大手建設業者は入り込めなくなったが、大工や左官といった地元職人たちは大忙しだ。

新建築禁止で国の交付金は頭打ち

このため、徹底的なコスト削減が必要になった。市長の月給は5000円に公用車も廃止。減収分を補おうと、資産家に提供してもらった別荘を、夜に結婚式を挙げると費用が1500円で済むという結婚式場として利用し、市の収益になるようにした。アルプ山脈を背景に、格安の結婚式を挙げられると評判を呼び、利用者が急増した。

市長は「一度破壊された環境はつくり直すことはできない。しかし、市民が行動すれば変化は起きる」と話す。



川のほとりにある別荘を利用した
結婚式場＝カッシネッタ・ディ・
ルガンニャーノ市提供

伊ミラノ近郊

